

生ずる。

現在蘇國の採りつゝある國策、就中國防國策は右の原理の忠實なる實踐に外ならぬ。而して之が貫徹の爲め凡ての情實と不必要の傳統とを棄て、徹底せる方策を實行しつゝある點は敬意を表せざるを得ない。

然るに彼が抱懷する共產主義の根本的誤謬と、政策遂行に急なるの餘り近代戦に最も肝要なる國民生活力の培養を無視しある點に、千慮一失の禍根を藏しある點は茲に特筆して讀者の記憶を希望する所である。以下近代國防の觀點に立つて蘇國五年計畫中に包含せらるゝ經濟就中重工業、武力戰準備、思想戰、外交政略戰を逐次検討して見よう。

經濟篇

一、重工業の驚異的飛躍

歐洲大戰に次ぐ内亂と、一九二〇—二二年ヴォルガ沿岸地方の大旱魃に起因する未曾有の飢饉とにより、國民經濟は一時荒廢し、生産力の低下物資の缺乏は其極に達した。蘇國は何はさて置き國民經濟の復興を必要とし、レーニンの所謂戦時共產主義の制度を

近代國防より見たる蘇聯邦

七

五年計畫
の目的

廢して新經濟政策なるものを採用するに至つた。

其結果農工業生産高は概ね戦前の水準に復興し、プロレタリア獨裁の經濟的基礎を構成するに至つた。茲に於て更に社會主義的發展を遂げ、資本主義諸國に對抗すべき産業の一大飛躍を爲すべく、一九二七年末第十五回共產黨大會に於て第一次産業五ヶ年計畫なるものを樹てた。

其目的は一、國內の工業化、二、農業の社會主義的改造、三、國內經濟體系に於ける資本主義的分子の克服と社會主義分子の強化、即國內の完全なる社會主義化である。

第一次五年計畫は一九二八年十月から實施せられ一九三二年十二月遂に四年三ヶ月を以て之を完結した。之に引續き第二次五年計畫に移り第一次の「量の時代」に比し「質の時代」を目的とし、新技術の把握、勞働生産の向上、農業の組織強化、重工業偏重を改め輕工業の振興といふ様な點を目標として進みつゝある。

以上は蘇國政權の言ふ五年計畫の目的であるが、蘇國建國の理想、其後の世界赤化工作の失敗、並に彼の抱懷する近代戰に對する思想等の觀點よりする時は、彼の眞意は資本主義國に對抗し得る國力を背景とする、思想及武力戰に依るの外國是貫徹の方法なしと

の結論に到達し、先づ經濟力を確立し國內を社會主義的に統一し、武力戰の基礎たる重工業を強化せしめんと企圖するに至つたものであると觀察せられる。

第一、第二次を通じて彼が如何に國防中心の重工業を重視して居るかは、第一次計畫に於て約八百億留の豫算中輕工業に三十五億、農業に九十七億、運輸交通に八十九億を費し他の大半は之を重工業に充當しあること、又第二次計畫に於ては約千三百三十四億留の豫算中農業に百五十二億、運輸交通に二百六十三億其他を以て重輕工業に充當しあるのを見ても明瞭に看取し得るが、左記要人の言は更に之を裏書きするものである。

ウオロシロフは一九二八年五月共產黨大會の席上に於て

「五年計畫は豫想敵國の聯合勢力に對し、勝利の獲得に必要な我が國防組織の點より出發せざるべからず」

と叫び、一九三二年七月共產黨大會は

「五年計畫遂行に方り、第一義的重要任務は蘇國の國防力増進に關係ある部門を發展せしむるに在り」

と決議し、一九三三年二月スターリンは共產黨合同總會の席上

近代國防より見たる蘇聯邦

九

0881

1889

五年計畫の課題は外部よりの軍事干渉や、攻撃の凡ゆる企圖を斷然排撃する可能性を
 與ふる國防能力を、最大限度に高むる爲一切の技術的、經濟的前提條件を作り出すに在
 つた

と喝破して居る。

第一次五年計畫は重工業偏重の結果、其成果は跛行的で國民生活必需品を生産すべき
 輕工業の如きは甚しく不振の状態に在るが、重工業に關する限り飛躍真に目醒ましきも
 のがある。左に掲ぐる數字は何れも蘇國側の發表であつて信を置き難いが、輪廓を想像
 せしむるには十分であらう。

左表は一九三三年末即第一次計畫末期に於ける重工業生産高の世界に於ける列序であ
 る。

生産の種類	一九一三年	一九二八年	一九三二年	
	(世界大戰前)	(第一次計畫前)	全世界	歐洲
電力	一五 _位	一〇 _位	六 _位	四 _位
石炭	六	六	四	三

ドンパス
の重工業

重工業の第一の中心は所謂ドンパス地方であつて、中にもドネーブルの発電所とハリ
コフのトラクター工場の完成（一九三三年八月）は其最たるものである。

ドネーブルの発電所は彼等が歐洲第一と誇示して居るだけに規模の廣大真に驚くべき
もので、其目的は北方の白露地方より蜿々と流れて黒海に注ぐドネーブル河を堰止めダ
ムを造つて其水力を利用して発電所を造りドンパス一帯の重工業の原動力たらしめんと

近代国防より見たる蘇聯邦

全工業生産品	自 動 車	農 業 機 械	一 般 機 械	鐵 鑛	泥 炭	石 油
一	四	一	二	二	一	一
二	六	一	二	二	一	二
五	一二	四	四	六	一	三
一	一	一	四	五	一	二

1891

2881

するに在つた。これによつて人煙稀れであつた廣漠たる平野に僅々五ヶ年の間に四十萬の職工を有する大重工業都市が出現するに至つたのである。

ハリコフはウクライナに在る、其トラクター工場の規模の雄大さは、一日に農業用のトラクター百四十五臺を製造し得る能力があると言へば想像出来よう。尙ほ茲では輕戦車も造つてゐる。農業用トラクターは戦時には直ちに重砲牽引用トラクターに改變し得るものである。

ウラル・クズネツの重工業

蘇國はドンバスの重工業を以て満足せず更に新なる重工業中心を極東に造つた。これは全蘇の二十二バースセントの鐵鑛を藏すると言はれて居るウラルの鐵と、同じく九十六バースセントの石炭を藏すると稱せらるゝクズネツ(クズバス)の石炭とを連絡し兩地に大製鐵所を造り之を基礎として各種の重工業を發達せしめんとするに在る。此重工業を如何に重要視しあるかは、スターリンが「ウラル・クズネツ重工業地帯の成果如何は第一次五年計畫の凱旋門であつて、帝政時代には人類稀であつた廣漠たる砂漠地帯たるウラル・クズネツ(クズバス)地方は、今や世界有數の重工業地帯と化した」と言つて居るのによつても窺ふことが出来よう。

1881

1892

ウラルの中心地はスウェルドロフスクで帝政時代エカテリンブルグと呼ばれた處、其製鐵所は蘇國最大のもので我が八幡製鐵所の數倍の規模を持つて居る。八幡製鐵所は規模の大なる點に於て世界有數のものであるが其數倍と言へば如何に尨大なるものであるか想像出來よう。此町の人口は五年計畫迄は十二萬五千に過ぎなかつたが今や五十萬に増加して居る。

クズネツツ製鐵所は稍、規模小であるが前記のものと大同小異である。

チエリヤピンスクには大きなトラクター工場がある。昨年五月完成し農業用トラクター一日百二十臺を製造するの能力がある。茲では重戦車を造つて居るとの事である。人口は五萬より十七萬五千に増加して居る。

以上は第一次五年計畫による重工業の概觀に過ぎないが約八百億留の豫算の大半は之に傾注せられ、其結果世界に冠たる大戦後型の新軍百三十萬、飛行機二千七百、戦車三千臺、其他機械化及化學戰の裝備を整へることが出來たのである。

本年一月發表の蘇國工業生産高を戦前並一九二八年(五年計畫第一年)及一九三三年に比較して表示して見よう。

近代國防より見たる蘇聯邦

一三

1893

1893

種類	一九一三年	一九二八年	一九三三年	五年間の増加率
發電量 <small>(百萬キロワット時)</small>	一、九四〇	五、〇〇〇	一五、〇〇〇	三 倍
石油産高 <small>(百萬ト)</small>	九・二	一一・六	二二・〇	二 倍
銑鐵産高 <small>(百萬ト)</small>	四・二	三・二	七・二	二 倍強
鋼鐵産高 <small>(百萬ト)</small>	四・二	四・一	六・九	一 倍半
歴延鐵産高 <small>(百萬ト)</small>	三・五	三・三	四・八	一 倍半
石炭産高 <small>(百萬ト)</small>	二九・一	三五・八	七六・七	二 倍強

一四

二 農業と運輸交通の改善

其一 農業

産業五年計畫の重點は重工業に在ることを述べたが、農業に就ては約九十七億留を充當して農業の振作を圖り、同時に共產主義社會を建設せんと企圖した。之が爲め個人農

0081

1894

コルホー

を廢して共營農(コルホーズ)制の普及に努力し第一次計畫末期に於て約二十二萬の共營農場五千の國營農場(ソホーズ)を設け三千のトラクター配給所が設置せられた。

右に依つて全國民の六十一パーセントはコルホーズ化せられ之より生産する農産物は蘇國全體の七十七パーセントを占むることゝなつた。

コルホーズと言ふのは之を極く卑近に説明すれば一村に於ける全農民の所持する農具を集め、互に分擔を定め共同して農耕に従事し生産物は政府に納入せしめる。其代り政府は各農民に一定の報酬を支給する、換言すれば農民は一種の役人即月給取りと化するわけである。此制度の特徴は貧農も出來ねば富農も出來ぬ従つて彼等の理想とする共產主義に最も適合する方法である。其最大の欠點は特別に努力しても報酬が増加するわけでないから少し意地のある農民は加入を欲せず又加入した者は懶けるといふ風で、之を防止する爲政權はグ・ベ・ウ(國家保安部)と稱する一種の憲兵並に軍隊を使用して農民を強制的にコルホーズに加入せしめ、加入した者には勤勞を強ゆるといふ方法を探つて居る。此制度に反對し不平を有する農夫はドンク峻烈なる方法によつて處斷せられるのであるが一九三〇—三二年の一年間に政府は九十萬の農夫に對し農耕地を剝奪し家

近代國防より見たる蘇聯邦

二五

1895

1895

農業の成
果

屋、農具、家畜を没收し着のみ着の儘で之を北部ロシア又はシベリアに放逐し強制労働者として運河開鑿工事其他に驅使せられつゝあるのである。斯く農民不平不満の最も甚しかつたのは、元來民族的にも蘇國政權に反感を有するウクライナ及北部コーカサス地方で、怠業の結果一九三二年は甚しく不作を來し遂に昨年春此地方は大饑饉となつたのである。これが爲めスターリンの農村政策失敗の聲が起つたのであるが、昨年末は天候に恵まれたのとコルホーズ化の徹底により、農耕面積の擴張と收穫の増加を來した。

本年一月八日に公表せられた一九三三年の粒穀物作柄及總收穫高は蘇國政權樹立以後は勿論帝政時代にも嘗て見ない成績であると稱して居る。

一九一三年及一九二五年以降一九三三年に至る數字を表示して見よう。

年	號	一ヘクタール當りの作柄 (セントネル)	總收穫高 (百萬セントネル)
一九一三	三	八・五	八〇一・一
一九二五	五	八・三	七二六・六

一	九	二	六	八・二	七六五・六
一	九	二	七	七・六	七二三・〇
一	九	二	八	七・九	七三三・二
二	九	二	九	七・五	七二七・四
一	九	三	〇	八・五	八三五・四
一	九	三	一	六・七	六九四・八
一	九	三	二	七・〇	六九八・七
一	九	三	三	八・八	八九八・〇

兎も角も農業に於ても數字上は相當の成績を示して居るが、工業労働者の優遇せられ
あるに反し農民は酷使せられ、而も生活は窮乏の極に達しある爲め、口外は出来ぬが心
中には鬱積せる不満を藏しつゝあることは看過出来ない事實である。此件に就ては後に
思想の部に於て更に詳述する。

近代國防より見たる蘇聯邦

二九

8081

1897

其二 運輸交通

二六

之に充當した經費は約八十九億と稱せられて居る。其主なるものは五年間に鐵道線五十線延長五千五百軒を新設した事である。これで大戦前帝露國時代の鐵道線延長六萬七千軒から、一九三三年一月には八萬二千軒に増加することゝなつた。此新線中特筆すべきは中央アジアのトルキスタンとシベリアとを連絡するトルクシブ鐵道である。これに依つて經濟的には中央アジアの棉花とシベリアの穀物、重工業生産品等が交易せらるゝことゝなり、政略的軍事的には支那西域赤化政策上重要な役目を演じつゝある。現在英蘇勢力争ひを生じつゝありと稱せらるゝ新疆赤化の如きも本鐵道の完成以來急速に其ランボを速めつゝあるのである。

第二次計畫に於ては總延長を九萬四千軒に即ち新線一萬二千軒を敷設せんとするもので、其主なるものは極東のバイカル・アムール線とモスクワ・ドンバス線と稱せられて居る。前者は滿洲國に對する戰略的意義を後者は蘇國の中心モスクワ地方と重工業中樞のドンバスとを連絡せんとする經濟的意義を有するものである。

以上は五年計畫に基く鐵道の發展狀況を紹介したのであるが、其裏面に於ては線路の

トルクシブ
鐵道

1898

1898

腐朽、輪轉材料の破損等甚しく經濟上及國防上大なる欠陥を包藏しありて、蘇國政權の重大なる惱みの種であることを附言して置く。
尙ほ海運に關する事もあるが茲には省略する。

武力篇

赤軍武力戰備の進展

赤軍兵力は今や百三十萬を算し數に於ては支那の二百萬に次ぐ平時兵力を、質に於ては佛、米の陸軍に優るとも劣らぬ最新最銳の編制裝備を有し就中化學戰(毒瓦斯細菌戰)飛行機、機械化部隊(戰車、裝甲自動車等より成る)に於ては世界に冠たるものありと稱せられて居る。今列強中に於ける蘇軍の位置を示せば左の如くである。

列強兵力一覽表

(昭和九年三月調)

日	國名	區分	平時兵力	内		團	隊	數
				種別	譯			
本			約二十三萬	兵	力	十	七	師團

近代國防より見たる蘇聯邦

0001

1899